



令和三年 春季彼岸会法要。本年 はリモート(オンライン)で、開催致します

今年の彼岸法要。不慣れな方も多
いと思いますが、コロナの感染を防
いで密にならぬようにと考えました。
you tubeを使ってパソコン・スマ
ホにオンライン配信と言う形をとらせ
ていただきます。

第33号
令和3年3月7日
発行
熊本市北区
高平 2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編集者
中山 義紹



今年先代住職 八世無閑道全大和尚
十三回忌(称名忌)にあたります。
お彼岸の法要に併せて先住の十三回忌も併せ
て厳修します。

リモート(オンライン)で、 配信する理由は

なかなか、コロナの蔓延被害
も治まらないようです。
昨年の春彼岸、お盆の施餓鬼法
要も内献という住職が単独で務め
る法要という形をとり、壇信徒の
皆様がお寺に集まらないように致
しました。
しかし、壇信徒の方も自分のご
先祖の供養は行いたい、そして目
の前で法要を見ながら手を合わせ
たいと思う思いはあり、「参加で
きないか？」という声も聞こえて
きました。通常の法要を行えば、
本堂一杯になり、所謂 密な状態
になり危険です。何か方法はない
かと考えていた所、私が園長を務
める高平幼稚園で、年長五歳児が
一年間に亘り、お作法研修を行っ
ていて、二月に行う最後のお作法
の様子を保護者に参観して貰うの
を恒例としていましたが、コロナ
の影響で園児と保護者が同室に集
まるのは危険と参観中止にしよう
としていました。しかし、子ども
が頑張った一年の成果を、是非見
たい、別室に中継してでも見せて
欲しいという要望がありました。
お作法研修は、納骨堂一階の座敷
で行います。保護者が集まるのは

幼稚園舎で、有線で行う
のも難しいので、無線中
継という形になります。
コロナ騒動以降、コンピュー
タを使った無線中継の方
法も簡単になりました。
更に同時配信でなく、し
ばらくは、都合の良い時
間に合わせて画面で見る
ことができるようにした
所、好評でした。

画面で見える方法

A パソコンの場合
ブラウザ「グーグル」
「エッジ」等ホームペー
ジを見るソフトを立ち上
げ、下記のURLアドレ
スを入力するとYouTubeの
浄国寺彼岸の画面が出ま
すので、再生して下さい。
B スマートフォン
パソコンと同様、グーグ
ルクローム、iPhone
eならサファリを立ち上
げて下記のアドレスを入
力するとyou tubeの浄国
寺の画面が出ますので、
再生して下さい。リアル
タイム(三月二十四日
午前十一時)に同時に見
ることもできますが、そ
れ以降の、どの時間帯で
も視聴可能です。

パソコンやスマホのブラウザ(ネットをみるソフト)に以下のURL(アドレス)を入力してください。

<https://youtu.be/GU6v04crCuI> 大文字、小文字に注意

お寺へのお詣りはできませんか？

コロナの感染防止で密になるのを防ぐためにリモート配信にしました。できれば、ご家庭で、画面を見ながら、仏壇に線香を供え手を合わせて頂きたいと思えます。

供養料はどうしましょうか？

供養料（お布施）は仏様、仏様になられた故人に対して、自分の気持ちの一つの修行として、お供えするものです。決して、読経に対して支払う報酬ではありません。お寺に参りに来られた時に、お供え頂ければ結構です。「それでは自分の気持ちが伝わらない」と思われる方は、お電話ください。振込用紙を送付致します。

お彼岸と先祖供養

昨年の彼岸の案内の寺報まで、彼岸の由来について5回に分けて書いてきました。今回は、何故日本では「故人」という個人ではなく先祖という「家」単位で、偲ぶと言う思いだけでなく、供養と言う行為を行うのかについて考えてみたいと思います。

これは、一神教である他の宗教（キリスト教やイスラム教）と仏

教の考え方の違いが大きいと考えます。仏教は関係性の宗教と言われる位で、今という結果（果）はそれに関係する原因（因）によるものであり、そこに到る条件（縁）が生み出したものであり、その関係性が大事だとされています。自分の存在を、神と私人との契約の下に確認する宗教と異なり、仏教では、自分の存在を、先祖と

言う因プラス自分の行為による因と、環境や他者との関係性という縁によって成立している果が今の自分の存在という風に確認しています。更に、先祖への感謝プラ

ス今の自分の良い行為が新たな因となり、自分をとりまく様々な関係性を大切にすることが良い縁となつて、新たな良い果に繋がると考えます。ただ、忙しい日常の中では亡くなった人への感謝の念は忘れがちです。だからこそ、彼岸やお盆という先祖供養をやるべき習慣が存在し、自分がより良く生きる為には、どうすべきかを考える契機となる習慣

が定着したのではないかと

思います。日々の生活は辛い事も多いのが常です。人生は「苦」

であるという認識が仏教の出発点です。しかし、だからこそ、命を与えてくれた先祖への感謝と命を支えてくれる周りの感謝を思い出し、より良く生きていきたいと思います。



令和三年 浄国寺予定

四月二十九日(土) 午後二時

松本喜三郎 墓前祭

喜二郎翁 追悼供養

谷汲観音供養

喜三郎祈念碑 除幕式

七月三日(金) 午前十一時

施餓鬼会法要

お盆壇信徒先祖総供養

十月日付未定 午後五時

「いま、心に」

仏教講演会

併設企画「お寺でジャズ」

鈴木良雄 (b) & The blind)

※コロナの状況に応じてリモート配信する場合もあります。

定例木曜坐禅会

毎週木曜日 午後八時より

当山本堂にて

一炷(約四十分)坐禅をして、仏教や禅の著述に関する話(約二十分)。今は「佛遺教経(八大人覚)」。会費会則一切なし、初めてのの方はご連絡下さい。

身辺雑記

お釈迦様が、亡くなる直前に弟子達に説いた教えをまとめたとき「佛遺教経」というお経がある。その後段に「八大人覚」というきちんと生きるための八つのポイントがまとめられている。①少欲、②知足、③遠離、④精進、⑤不念、⑥禪定、⑦智慧、⑧そこで不戯論の八つだ。ここで全部に触れる事は出来ないが、今のコロナの自粛生活、不要、不急の外出を避け、少人数で過す生活を通じ、遺教経・八大人覚の「遠離」の教えを思い出した。「心静かな安樂を求めようと思えば、努めて一人静かな所に身を置いて、自己への執着をなくし、外界の誘惑を避け、妄念や邪念をなくすようにしないさ。多くの人と交わろうとする人は、それだけ多くの苦惱も自ら招いてしまうものだ。世間の事に執着すると、それだけ苦しみも増すものだ。喧嘩から離れて、心静かに保つ事を遠離」と記されている。人と会えないと寂しい。自粛自粛と言われると気が滅入り、ストレスがたまるのも事実だ。逆に悩みを抱えていると一人だと者詰まり、余計に辛くなる。そこで、提案だ。自粛と言うと外から強制されたものと思いがちだが、自ら遠離の生活を選択したと考えるはどうだろうか？一人静かに、邪念や妄想を排除し、自分の生き方を再考する機会と捉える事も出来ないか？当山で毎週開催している坐禅会の参加者がコロナを機に増えている。やはり、みんな同じような事を考えているらしい。